

第4回脱炭素市民会議 ワークショップ記録

日時：2022年12月14日（水）18:30～20:30

場所：真庭市役所本庁舎会議室

テーマ：「脱炭素に向けた関係主体のアクションと連携」を考える

内容：

市民会議でいただいた意見について、市民/企業（市内・市外）/行政などの関係主体それぞれが、どういった具体的なアクションを起こすべきか？

■模造紙の内容：黄：市民（具体的に） 紫：企業 水：行政 赤：その他

①：地域の活性化に繋がる脱炭素政策を！

・大規模ではない身近な再エネ発電の普及。エネルギーの地産地消の実現。脱炭素に関わる技術・サービスがお金になる社会。脱炭素社会で真庭市にも仕事がたくさんできて人口が増えてほしい。

（⇒これに対して別の人の意見：電気の地産地消という話があったが、電力会社が小さいので、個人のお宅までは回せていないので、大きいところにまかせたほうがお金は安くなるのでは。）

・まだまだ活用できていない土地での太陽光発電の拡大をすべき。

・森林が多いのだから、木質バイオマス発電所を増設すべき。

・真庭市の地域を考えると、木材の関係から、木質バイオマス発電所の新設を早期にすべき。今稼働している発電所も、いずれ補助金がなくなり、売電ができなくなるはずなので、それを家庭に送っていただくのがよいのでは。

（⇒これに対して、別の人の意見：木質チップを発電すると、エネルギーロスが75%で。真庭バイオマス発電所と同じものをもう1機作るより、もっと熱を使って、例えば第一次産業に生かせるような形ができないか。小さいスポットで熱供給併用の発電所を作った方がいいのではないかと。電気ばかりになりがちだが、ほかにもエネルギー利用というのはありうるのではないかと。）

・木質バイオマスの恩恵が市民に還元されていない。バイオマス発電の恩恵を市民の人が受けられるようにすべき。

・バイオマス発電の電力を安価で家庭に送ってくれれば、真庭市であればこんなに安い！ということになって、移住者が増えるのでは。生活が楽になれば、少子化問題の一つの解決策になるのではないかと思う。

②：脱炭素に向け、市民一人一人の意識を高め、環境にやさしいライフスタイルを広げよう！気候変動（減災・防災）に備えよう！

<個人の創エネ・省エネ>

・自家用車を持っている人の2台目はEVにすべき。

・補助金を真庭市がどれくらい出せるかということもあるが、それを活用して、太陽光パネル・蓄電池を各家庭に設置し、各家庭・個人のEV化を進めれば、かなり脱炭素化はできるのではないかと思う。

・一番多かったのが、ごみの分別、化石燃料を使っているものを減らそうという話だった。

・ごみの焼却は、最終処分場がないので、それを遠くまで運んでいる。分別をすれば、減らせるということだったので、企業も家庭も細かく分別すべきという話だった。

<情報発信>

・真庭市が取り組んでいることを、情報発信をどうするか。成功事例であったり、実際に取り組んだ部分がどういった成果を生んだかを発信すべき。

・（高校生からの意見）若い世代にどうアピールするか。今の若い世代は、媒体がSNSになってきている。それを見て知っている。そういうところで公開していくと興味を持つのでは。

Aグループ (①：地域の活性化に繋がる脱炭素政策を！)



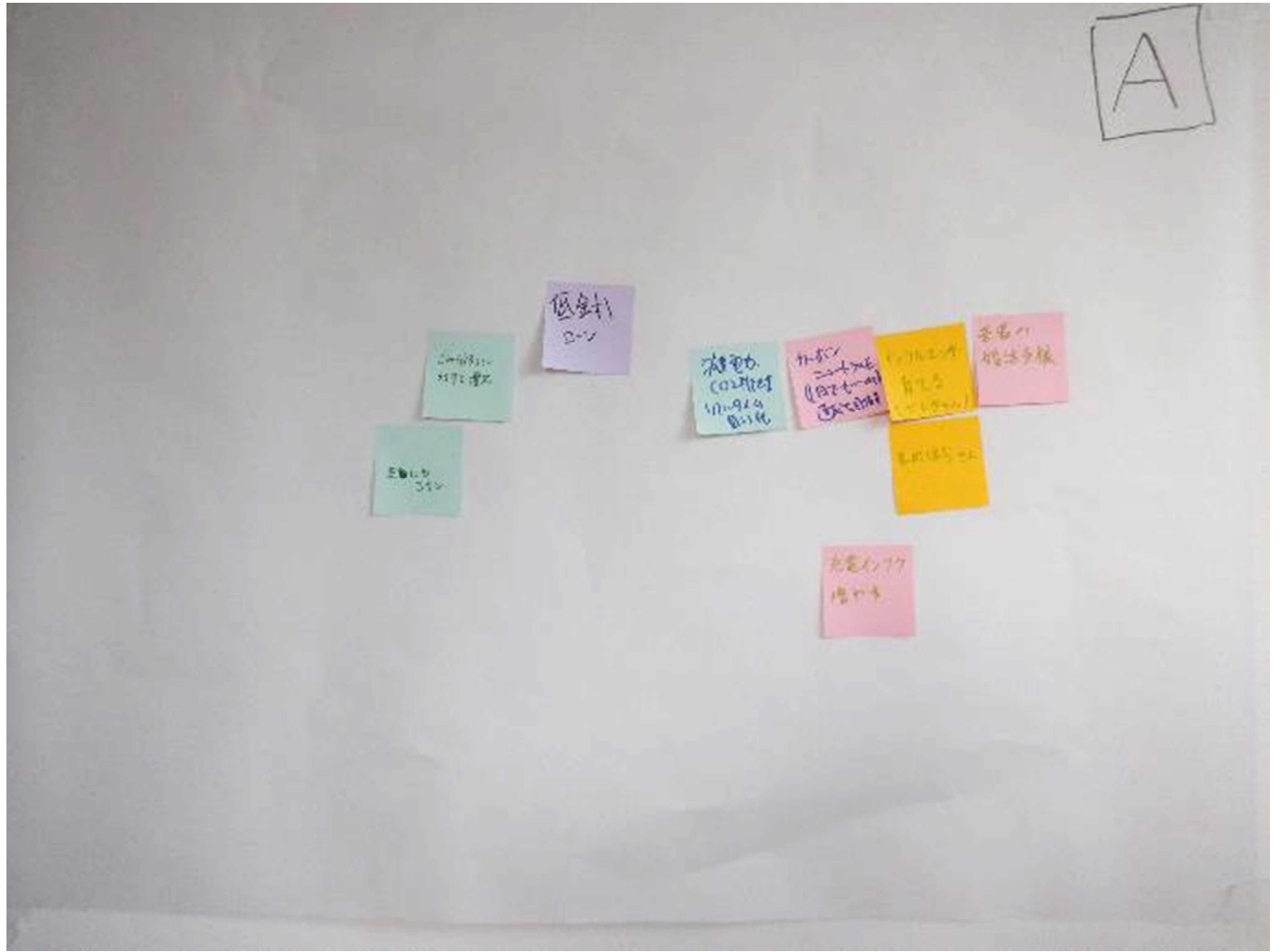
- ・発電所への小口の投資
- ・顔の見える消費 いくら誰に
- ・バイオマス発電をつくる
- ・市民には安く提供
- ・発電所増設
- ・土地の提供
- ・市民に還元できる熱利用方法を考える
- ・温室栽培
- ・木材流通のデジタル化

- ・太陽光発電・EV 自動車購入拡大
- ・屋根に太陽光発電機を置く
- ・家に蓄電池を置く

- ・自らの車を提供 (他人の車を利用)
- ・市民向け太陽光発電融資拡大
- ・メガソーラー設置 (大手誘致)
- ・未利用の土地を太陽光のために貸し出す
- ・パネルの廃棄技術の確立
- ・補助金拡充 (脱炭素)
- ・特区を作る (Maas)
- ・子ども・高齢者の移動の自由を脱炭素で
- ・カーシェアサービス (EV)

- ・カーボンクレジット
- ・炭素クレジット×デジタル地域通貨

Aグループ(②)：脱炭素に向け、市民一人一人の意識を高め、環境にやさしいライフスタイルを広げよう！気候変動（減災・防災）に備えよう！



- ・ごみ分別に対する還元
- ・まにわコイン
- ・低金利ローン
- ・消費電力、CO2 排出量リアルタイム見える化
- ・カーボンニュートラルを(1日でもいいので)達成を目指す
- ・インフルエンサー育てる(グretaさん)
- ・まめはらさん
- ・若者の婚活支援
- ・充電インフラ増やす

Bグループ (①：地域の活性化に繋がる脱炭素政策を！)



- ・市や国 バイオマス熱利用する企業／農業の誘致
- ・バイオマス発電所はもともと熱電供給で原方の予定だった
- ・地域の会社で地域電力会社の設立 ← 市役所で地域電力会社の設立
- ・電力社会を切り換え意識する
- ・企業向けの省エネ・再エネ設備導入補助
- ・設備の省エネ化 再エネ設備の導入
- ・省エネ機器にかえる
- ・省エネ行動 暖房の設定温度 続けてお風呂に入るなど
- ・自家消費型の太陽光発電を購入する費用を助成する
- ・独自電源を持つ家が県に2軒ある
- ・電気だから良いと思わない。その基は何か考える
- ・食・エネルギーの自給をのばしていく
- ・木 伐採補助 1kg2円ありがたい

Bグループ (②)：脱炭素に向け、市民一人一人の意識を高め、環境にやさしいライフスタイルを広げよう！気候変動（減災・防災）に備えよう！



- ・太陽光 + 蓄電池を作る
- ・太陽光や蓄電池（EV）の導入
- ・太陽光発電への補助は小規模なものに限る制度変更
- ・新築住宅への太陽光の設置義務化（＝補助）
- ・金だけ、今だけ、自分だけをやめるよう意識する
- ・国 ゴミを出さない仕組み（出した側が片づける）
- ・三重県に持ち出す最終処分ゴミを RPF（RDF＝北海道ニセコ環境）
- ・ゴミの分別をしっかりとできるように幼児から教育（市民）
- ・上勝町みたいにできるとすごい
- ・ゴミ出し困難な高齢者等に手助けしてくれるシステムを！
- ・ゴミの 1/2 の生ゴミを減らそうとしている。し尿も含めてとてもいい
- ・遷喬小の紙パック 何とかした方がいい
- ・EV 車購入時に補助金
- ・EV ステーション導入支援
- ・市内の車販売店で購入をすすめる→植林作業等でアピール
- ・企業の社用車を EV に！
- ・EV ステーション設置
- ・EV 車に災害時ソーラーで蓄電できるようにしてほしい
- ・車を購入するなら EV にする！
- ・EV を蓄電池代わりに使う
- ・自営線を広げる！
- ・学校の教育でバイオマス発電について見学、勉強する機会を作る
- ・市・企業 脱炭素省エネの情報共有の場
- ・エネルギーを EV・太陽光にしぼらず←基が何か
- ・木・水などでできやすいことをエネルギー源にする
- ・SNS で広げる情報
- ・移動スーパーでコミュニティ 車の移動減らす
- ・バイオマス燃料の暖房設備のサブスク
- ・葬儀の在り方の変化を何とかのりこえて結びつきの復活を

Dグループ (①：地域の活性化に繋がる脱炭素政策を！)



- ・林業に人が集まる魅力的な会社づくり
- ・お金をもうける
- ・5/企業 行政と協力し市民へ売電する制度を作る
- ・カーボンクレジット購入と自社製品ブランド化
- ・地域新電力の設立
- ・雇用を生み出す
- ・自社の CO2 排出量の把握と対策
- ・CO2 排出が抑制される設備投資 イノベーション

- ・バイオマス発電を各家庭に流通させる仕組み
- ・木質バイオマス発電所 2 号機
- ・脱炭素の日の設定
- ・補助金を出す
- ・情報発信
- ・メリットを明確にする
- ・長期計画
- ・規制緩和
- ・見直しを柔軟に
- ・5/行政(市) 企業と協力し市民へ売電する制度を作る
- ・地域の CO2 排出量の把握 目標明確化

- ・環境ビジネススタートアップ支援
- ・義務教育での環境教育の充実

- ・足る生活 真庭ライフスタイル
- ・環境フットプリントアプリの活用
- ・地域環境 DAO 形成
- ・家の屋根に太陽光を設置する
- ・省エネ
- ・地域を大切に考えるを持つ
- ・2/市民 土地を貸す事でメリットとなる仕組み
- ・まきストーブを活用する
- ・考える
- ・意見を発言する
- ・『知ってもらう為に』『脱炭素』ということについていろいろなどころで話をしてみる 家庭で、友達と、職場などで

- ・子供のいる家庭は電気料金引き下げ
- ・林業教育機関
- ・4/三者 発電作りに関する制度を利害関係者で行う
- ・その他 森林管理

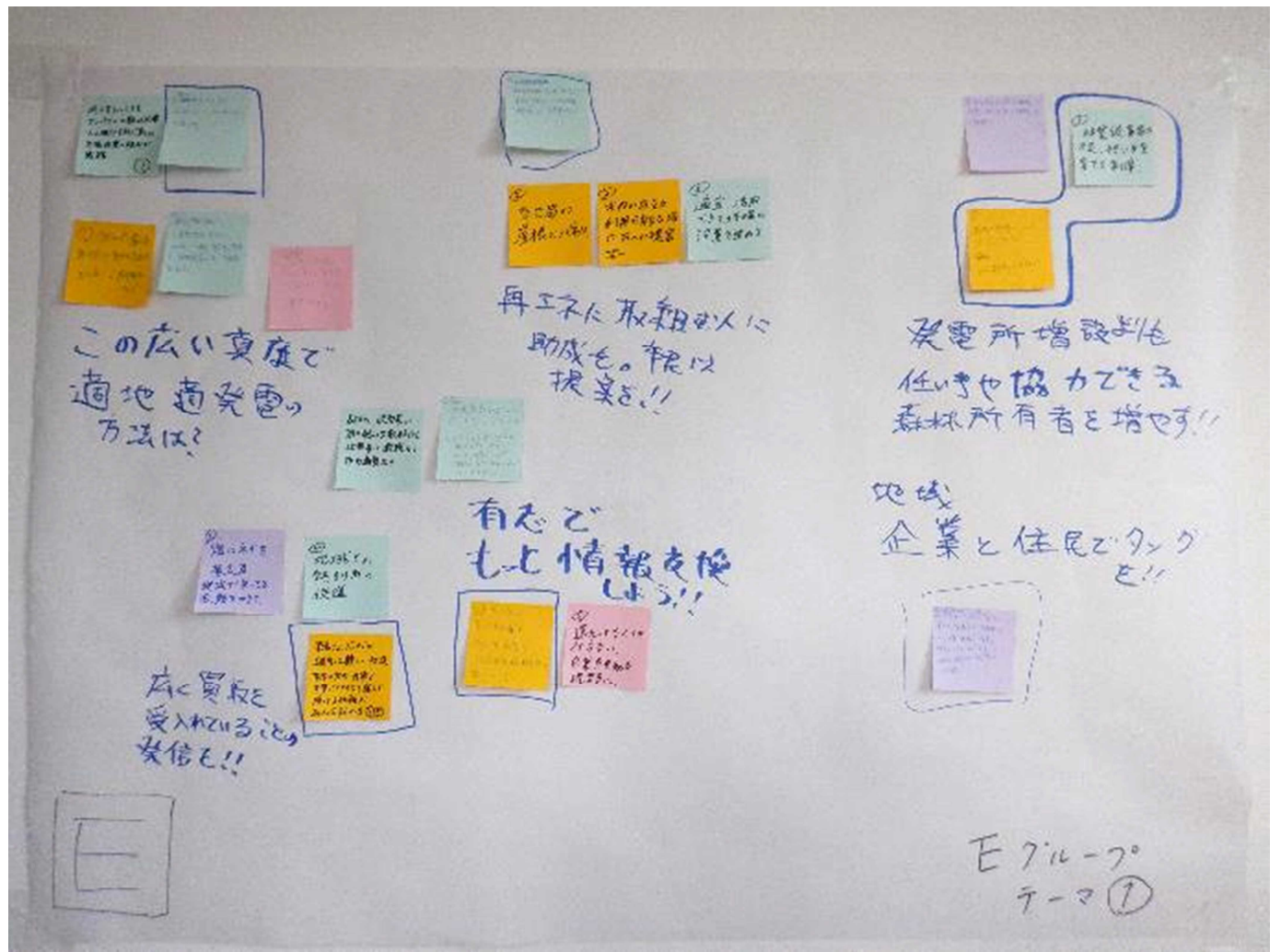
Dグループ (②：脱炭素に向け、市民一人一人の意識を高め、環境にやさしいライフスタイルを広げよう！気候変動（減災・防災）に備えよう！)



- ・脱炭素ビジネスの要素
- ・意識を高める
- ・会社のゴミを減らす
- ・災害時地域に協力
- ・社内での脱炭素アイデアの募集
- ・企業さんだからこそできることで win-win なアクション
- ・脱炭素の取組の情報発信
- ・情報発信 インターネット
- ・情報弱者 年寄りをどうするか
- ・脱炭素の日の発信
- ・地元出身の有名人 (JO1 豆原さんなど) 身近なアクションを紹介
- ・まにこいと環境ポイント交換
- ・行政の TikTok が流行しており若者向けに発信
- ・自家用車 2 台目 EV の PR

- ・生ごみの堆肥化 液肥
- ・木を植える 林を作る 雨の保水
- ・カーシェアグループを作る
- ・ゴミの分別の仕方 市民みんなで楽しく学ぶ仕組み
- ・意識を高める
- ・ゴミを分別する
- ・車を使わず公共交通機関を利用
- ・地産商品の購入
- ・リサイクル リユース
- ・電気を使わない時間を設ける
- ・ゴミの出ない商品を購入する
- ・減ゴミ プラ商品の
- ・学校教育に取り入れる

Eグループ (①：地域の活性化に繋がる脱炭素政策を！)



<この広い真庭で適地適発電の方法は？>

- ・①何をするにしてもマンパワーの数は必要 人口減少を防ぐための支援政策の強化が急務
- ・①再エネ発電できる量が各地域どのくらいあるのか調査する
- ・①個人で省エネ再エネに取り組む エコカー、太陽光など
- ・①再生可能エネルギーの発電所を作りたい 地域の個人、事業者、団体に設備投資の際の助成金を出す

・①小規模ならチップにしなくていい？薪とか

<再エネに取り組む人に助成を。市民は提案を！>

- ・②再生可能エネルギー発電所の建設を進めたい土地所有者（農家など）に助成金を出す
- ・②各世帯の屋根にパネル
- ・②市内の有効利用可能な場の、市への提案
- ・②適宜、活用できそうな場に設置を進める

<発電所増設よりも担い手や協力できる森林所有者を増やす!!>

- ・③再生可能エネルギーに取り組む企業に低利率で融資する（銀行）
- ・③林業従事者は不足。担い手を育てる制度
- ・③森林の所有についてはっきりさせる。ひとまかせにしない

<広く買取を受入れていることの発信を!!>

- ・SDGs、脱炭素の取り組みを数値化し、世帯毎に減税なり市内通貨なり…

- ・①⑥④試験的なことができるエリアをつくる(ex. ・データを計測することを条件に安く住める・そのエリア内でエネルギー地産地消などためしたいことをやってみる。)

- ・①④畑にネギを植える。地域で空いてる田、畑を借りて
- ・④地域での熱利用の促進

- ・④⑤業者さんだけの運用は厳しい状況。市民の方も日常で木質バイオマスを運んでいただける仕組があれば助かる

<有志でもっと情報交換しよう!!>

- ・⑤再エネに取り組む個人や企業でゆるやかな情報共有の場をつくる

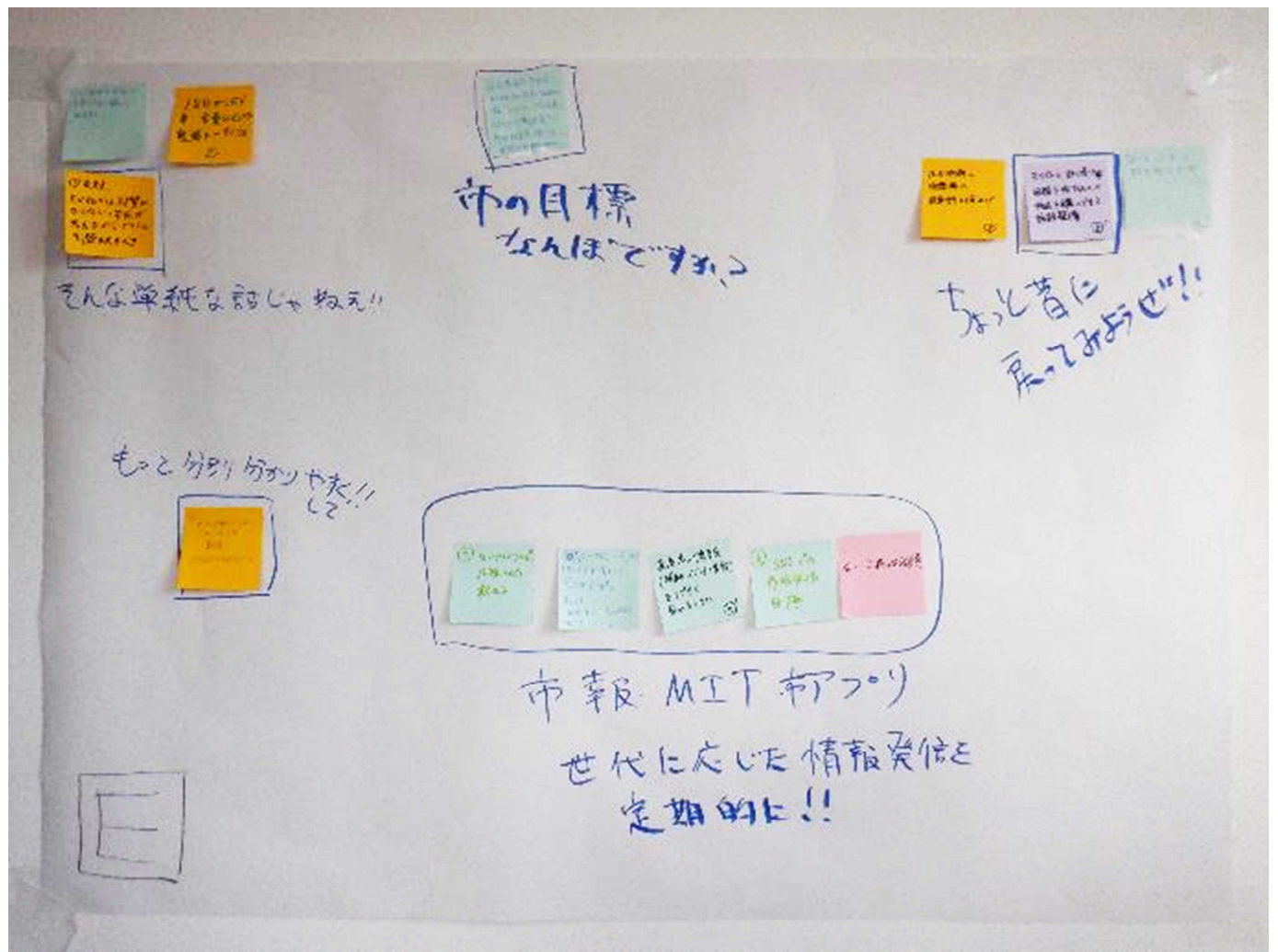
- ・⑤還元は無くても仕方ない。企業販売も視野に

<地域企業と住民でタッグを!!>

- ・⑤⑥再エネに取り組む企業が地域住民と協定を結び、地域内で安定的にかつ地産地消で電気を供給できるようにする。市民を雇用して設備をメンテする

Eグループ
テーマ①

Eグループ（②：脱炭素に向け、市民一人一人の意識を高め、環境にやさしいライフスタイルを広げよう！気候変動（減災・防災）に備えよう！）



<そんな単純な話じゃねえ!!>

- ・①EV 本体や家庭での充電設備の購入に助成する
- ・①1 台目から EV 車 充電のインフラ整備をいち早くする
- ・①反対。EV 化では対策にならない。市民が考えながらアクションを選択すべき

<市の目標なんぼですか?>

- ・②各家庭や地域で再エネ設備の設置に取り組んだ場合、どのくらい「脱炭素」できるのか試算して具体的な目標とする

<ちよっと昔に戻ってみようぜ!!>

- ・③化石燃料の容器等の廃棄料の値上げ
- ・③マイボトル、量り売り等容器を持ち込んで物品を購入できる施設整備
- ・③グリーンセンターの焼却熱を利用

<もっと分別分かりやすくして!!>

- ・④幼少期からのゴミ分別の教育（学校だから行政?）

<市報・MIT・市アプリ 世代に応じた情報発信を定期的に!!>

- ・⑤ローカルテレビ、広報などに載せる
- ・⑤太陽光パネル設置や再エネ由来の電力の普及率を市報に載せていく。助成金をお知らせする「再エネコーナー」
- ・⑤真庭市の情報（補助、イベント情報）をアプリで見れるように
- ・⑥SNS での情報発信部隊←これは必須